哲學研究　第四百六十號

學界展望

デンマーク・ソェーヤン・キヤケゴーァ協會の現況

——(Virksomheden af Søren Kierkegaard Selskabet i Danmark.)——

大谷長

沿革

デンマーク・ソェーヤン・キヤケゴーァ協會が發足したのは、比較的近い過去に於てである。今から十一年程前の一九四八年五月四日に、コペンハーゲン大學に籍を持つ人々が中心となつて創設されたものである。キヤケゴーァの名聲が近年次第に高まつて來、彼の著作の飜譯や解說が多數現れ、學識者であると否とを問わず、或は敬虔に、或は恐る恐る、或は時には好奇的に、彼の作品に向われる事が多くなつた。その間、人々の內に感じられて來た事は、國家地域の距りのために、この哲學者の思想に學問的研究を集中するのに種々の制限を受け、或は妨げられる不便があり、そして彼等の間に共通の焦點を持つ事が缺けている憾みがあるという事だつた。他方、人々は彼の作品の最も新しい研究結果を手の屆く所に解說的に提示してくれる一般的な勞作や、彼の著作の注釋版を要望した。又、デンマーク國內にあつても、講義や研究集團を伸張し、この思想家の意のある所を闡明するようアレンジする事が提議されていた。このような要求に應ずるために協會は創設されたのであつて、以下に述べるような種々の講演や、信賴するに足る著述出版の助成を通じ、又全世界にわたるキヤケゴーァの友人達との接觸を企圖し、キヤケゴーァを研究するためにデンマークに來る外國研究者を指導案內するなぞによつて、協會は今日大きな役割を果しているのである。

機構

先づ役員に就ては、會長はコペンハーゲン大學神學科組織神學教授 N. H. Søe, 副會長は同大學哲學科デンマーク文學教授 F. J. Billeskov Jansen, 會計係にキヤケゴーァ家の後裔である Olaf Kierkegaard, 書記に同大學神學科助教授 Niels Thulstrup が、初年から任命されて居り、その他になお委員が若干名ある、

顔ぶれは漸次變つて來たが、現在は、Villads Christensen, Jolis. Sløk, Arne Jeppesen, Gregor Malantschuk, Arild Christensen の諸氏である。なお、キヤケゴーァ研究並びに普及の功によつてデンマークの爵位 Ridder af Dannebrog を與えられているアメリカの Walter Lowrie 師は、唯一人の名譽會員としてこれら本國役員の最上段に擧げられているのが目立つ。

協會役員の選出は、毎年一月に開催される總會の席上で選擧されるが、又、協會の行う行事やその他の活動の豫定もその時決定される。總會には會員のみの出席が許されるが、もし議せらるべき提案が會員自らにあれば、豫め文書で會長に送達して置かねばならない。昨年の總會では型の如き總會順序と百年祭國際會議の報告以外に別に目新しい事はなかつた。總會の後で講演が行われるのが習しで、之には一般の人の聽講が歡迎されるが、二クローナーが徵集される。今年の總會の後ではヴィラーズ・クレステンセン（Villads Christensen）牧師が「教會闘爭へのソェーヤン・キヤケゴーァの諸動機」の題下に講演した。

講演活動

右の特別講演のほか、協會は毎年春と秋の各三ケ月の間に、各三回程の講演會を催し、會員以外の一般聽講希望者は、二クローナーの來客券を買つて聽講する事が自由である。試みに一九五五年の秋のプログラムを示すと、

十月六日、「キヤケゴーァの思辯的な用語法に就て」アリル・クレステンセン（Arild Christensen）學士。

十月廿七日、「實存在する者に對する眞理（キヤケゴーァに於ける逆說）」オールセン・ラーセン（Olesen Larsen）牧師。

十一月十日、「ゴルスメットとキヤケゴーァ」ヘルウェ・トルベーャ（Helge Toldberg）博士。

なお、これらの講演會のほかに、毎年誰か協會の主だつた人がキヤケゴーァの著作の一つに就て、四回程の連續講義をやる、例えば一九五五年秋にはニェルス・トゥルストルプが『哲學的斷片』をやつたし、一九五四年秋にはビレスコウ・ヤンセンが『これかーあれか』を、一九五二年にはソェが『キリスト教への訓練』をやつた。熱心な聽講者はテクストを持參するが、それが要求されるわけではない、然し、年輩の夫婦連れの多いのが目立つ聽講者は、多く熱心にメモを取つている。これらの講演は大學の Metro-Annex と呼ばれる建物の講義室で、夜行われる。

文書活動

その最初に擧げるべきは、機關誌の發行である。一九四五年に第一卷第一號を出したクォータリー「ソェーヤン・キヤケゴーァ協會通報」(Meddelelser fra Søren Kierkegaard Selskabet) には、研究論文、書評、情報雜錄、Kierkegaadiana（キヤケゴーァ關係書目錄）、のほか、時に、年次報告、懸賞論文課題、等が收められて、キヤケゴーァ研究者達の間に大きな影響と足跡を殘しつつ發行され來たつたが、一九五五年三月の第五卷第二號を以て廢止する事が委員會で決定され、之に代つて、年報の

「キヤケゴーイアナ」(Kierkegaardiana) が發刊される事になつた。前の「通報」の方には、一九五〇年の第二卷第二號に、半田一郎氏の論文 "Japan and Kierkegaard" が出ていたほか、最終卷の一九五五年第五卷第二號には、筆者がアメリカのキヤケゴーァ研究家で先年日本各地で講演したハワード・ジョンソン (Howard Johnson) の日本で發刊された書『キヤケゴーァ理解の鍵』を紹介した論文 "Introduction to Kierkegaard" が掲載されているが、「通報」のバックナンバーはデンマークでももはや手に入れる事が出來なくなつている。

「キヤケゴーイアナ」の方は、第一號が一九五五年春に出たが、年刊となつたため頁數もずつと殖え、編輯主旨も、主として北歐語による論文、比較的大きな評論、キヤケゴーァに就ての重要な新しい著作の批判的論述と、小さい書評やニュース類が採錄され、研究と定位に資するのがこの出版の目的である、という事のみが歌われてあつて、各國に於ける主體的な研究の進んだ今日の狀況を背景にして、「通報」からの大きな脫皮と進展がうかがわれる。「キヤケゴーイアナ」の第二號は今年夏前に出たが、筆者のデンマーク語による論文「日本に於けるキヤケゴーァ研究の歷史」"Kierkegaard-studiets historie i Japan" が含まれている。

それから、協會は、一九五五年春にもう一つ價値多い出版に協力した。それは、デンマークの著名な文藝誌 orbis litterarum の企てに協働して、キヤケゴーァ記念號 Symposion Kierkegaardianum を出版した事で、世界の著名キヤケゴーァ學者の殆んど大部分が之に寄稿している。筆者も "Something about Kierkegaard's Inner History" の論文で末席を汚している。

なおこの機會に序ながら附加えて置きたいのは、近くデンマークS・K・協會の下で發刊される最も詳しいキヤケゴーァ・ビブリオグラフィのために、筆者はデンマーク滯在中同協會の要請で、日本に於ける一九五五年までの關係書籍論文の歐文譯リストを作製提出して置いた。之は昭和三十年十月の「理想」キヤケゴーァ特輯號に桝田氏と田淵氏の協力で出來ているものを參考にして、筆者自身のリストをもとに自由に筆を取つて譯出したものであるので、ここで斷つて置きたい。

協會は、機關誌上で一九四〇年以來既に四回にわたり懸賞論文の課題を發表して一般の應募を期する企劃をやつて來ている。先づ最近の課題例を擧げると、一九五四年度は「ソェーヤン・キヤケゴーァの言葉の研究を求む」で、キヤケゴーァの言葉の個別的な本質的側面でもいいし、彼の作品のグループに就てでもいいという事になつていた。又、一九五五年度のは、「『後書』に到るそして『後書』に關する、キヤケゴーァに於ける倫理的なものの概念」である。規定を見ると、この懸賞金の設定は、無名で協會へ贈與された資金によつて出來たものとなつているが、その無名の人というのは讀者の御想像に任せるとして、當選者に與えられる賞金は一千クローナー（一クローナーは約五二圓）である、然し協會の會員で構成される選考委員會の選が嚴格だというのは從來からの評判で、一九五五年度の分も、應募作品の中に充分價値のあるものを發見出來なかつ

たという結論が出されている。

次に協會の出版物に就てであるが、之には現在二通りのものがある。一つの方は、協會が特に興味あり且つ有益な研究として取上げるものの叢書的出版である。この方は今までの所、一册しか出ていないが Aage Henriksen: Method and Result of Kierkegaard Studies in Scandinavia. A Historical and Critical Survey. である。之は元來、一九四四年にコペンハーゲン大學が「スカンディナヴィア諸國に於けるキヤケゴーァ研究の歴史」という課題の懸賞論文を募集した時に、オーウェ・ヘンリクセン講師が當選して大學から金メダルを與えられたが、協會が之を取上げて、スカンディナヴィアのキヤケゴーァ研究の方法と成果をば、スカンディナヴィア語を讀めないキヤケゴーァ愛好者の廣い範圍へ知らしめる目的で、英譯して出版したものである。この出版には Rask-Ørsted 財團からの支援があつた。序ながら、デンマークには科學振興と援助を主目的に設立されている幾つかの財團、基金がある、右のものや Carlsberg 財團なぞがそれで、學問をする者に非常な恩惠を及ぼしているのは注目される。なお、協會は一九四九年に、Hermann Diem: Die Existenzdialektik von Sören Kierkegaard に對し、その熟達した研究を顯揚して賞金を與えている。

協會のもう一つの方の出版物は、筆者が別の所で紹介したマランチュクの作品を述べる時に言及した「ソェーヤン・キヤケゴーァ普及叢書」(Søren Kierkegaard Selskabets Populære Skrifter) である。この方は今までに五卷を數えている。マランチュク (G. Malantschuk) の二書(『S・キヤケゴーァの著作入門』、『S・キヤケゴーァの教會攻擊』——後者はソェの論文『S・キヤケゴーァと教會闘爭』と合本になつている)の外に、第一卷はビレスコウ・ヤンセン『我々は如何にソェーヤン・キヤケゴーァを學ぶべきか』、ソェ『主體性が眞理である』の兩論文から成つて居り、第二卷はホー・ロオス (H. Roos) 著『ソェーヤン・キヤケゴーァとカトリシズム』、第四卷はヴィラーズ・クレステンセン著『キリスト教へのソェーヤン・キヤケゴーァの道』である。

なお右のほかに、協會の協力の下に出版が進められているキヤケゴーァ獨逸譯全集のある事が忘れられてはならない。ヒルシュ譯に劣らない立派さで着實に二卷を出版して來た。各卷に集められている作品の內容がヒルシュ版のような年代順によるのでなく、內容的な關連を主にしているのが特色である。一九五一年に出た第一卷には『キリスト教への訓練』、『二つの倫理的-宗教的小論』、『アズラーの書』を含み、昨年末に出た第二卷は『死に至る病』、『畏れと戰き』、『受取り直し』、『不安の概念』を含む。第三卷は『哲學的斷片』、『學問はずれな後書』を含み、一九四九年に出版される。譯譯の編輯主任は Walter Rest 教授と Hermann Diom 教授であるが、多くのデンマーク人、ドイツ人の學者の共譯になるものである。そして Niels Thulstrup の「これまでの中で最もよい註」(ウォルター・ラゥリー)が附けられている。出版所はスイスのカトリック出版社 Jakob Hegner である。この方の共譯者に一名の女性 Rosemari

Lyngstrup が加わつているのはヒルシュ版に Anna Paulsen が譯者として入つた（ヒルシュの失明のため）のと對照的である。なお、トゥルストルプは今年四月、『後書』出版（之は右の獨譯『後書』ではなく、デンマーク語の註入りテクスト）のためデンマーク政府の科學財團から 14.150 kr. を與えられたのは、筆者が同じ書の譯稿を抱いたまま何年經つても日の眼を見ないのを考えて、羨しい限りである。

私は右にデンマーク・S・K・協會の活動全般にわたつて述べて來たが、過ぐる一九五五年のキヤケゴーァ百年祭國際會議の主催に當つて協會の果した役割は、その最も大きな活動を示したものであつた。そしてこれら全ての活動に於て、その實際の事務萬端に多忙な働きをしているのは、協會の書記であり、大學の助教授であると共に、有能なキヤケゴーァ學者であるニエス・トゥルストルプ（Niels Thulstrup）で、彼は私が彼の家を訪れる毎に、机上に積まれた各地からの山のような未整理の協會宛の手紙を私に示したものだつた。彼の活動はそのほかにも、撓まなく新聞や雜誌に貴重な論文を寄稿し續けているし、又、協會の依囑によつて彼が出版したキヤケゴーァに關する手紙と諸記錄の完全な註釋附きの版は、近來に於ける最も重要なキヤケゴーァ文獻であり、又同樣彼の出版した詳細な解說と註附きのキヤケゴーア諸著作テキストの最初の卷（『哲學的斷片』）は、デンマーク讀書界に對してのみならず、廣くキヤケゴーァを原典によつて研究せんとする人々に對して、大きな福音となつている。彼の夫人 Marie Thulstrup は又チェッコ・スロバキア出の才媛で、私には大變よく分る短年月の間にマスターした外國人のデンマーク語でしか話さなかつたが、佛獨語が自由で今やキヤケゴーァに關する論文に書評に、縱橫の活躍をしている。內助の功が大きいであろう。（本稿は、一九五七年八月に書かれたが、發表の機運に惠まれずに過ぎた。以來今日までに、右の「S・K・普及叢書」は更に二冊を加えた――カール・サガウ（Carl Sagau）著『責めありや―責めなきや』、ヴィラーズ・クレステンセン著『教會鬪爭へのソェーヤン・キヤケゴーアの諸動機』――し、協會版の獨譯全集第三卷も出版された。毎年五月五日のキヤケゴーアの誕生日に協會が主催する懇親の集會（又は小旅行）は、今年はフレズレグスベーャ公園にあつて今なおそのかみの面影を傳えている所の、キヤケゴーァの愛したレストラン Josty に於て行われたとの報に接し、筆者は懷舊の念を禁じ得なかつた。）　（了）

（筆者　大阪外國語大學〔哲學〕教授）

新着外國雜誌所載論文一覽

――社　會　學――

AMERICAN SOCIOLOGICAL REVIEW.
Vol. 23. No. 1. Feb. 1958

Schulze, R. O.: Economic Dominants in Community Power Structure.